

本に親しむ

家庭での読書活動への支援

家庭

家庭は、子供の基本的な生活習慣を育む場であり、健やかな育ちの基盤となる場所です。子供の読書習慣は家庭の中などの日常生活を通して形成されるものであり、読書が生活の中に位置付けられ、継続して行われるために、家庭での読書活動推進に取り組む必要があります。

乳幼児期における読み聞かせは、親子の良質なコミュニケーションを育み、子供の想像力や表現力を豊かにするものであるとともに、子供にとっては信頼する大人とのかかわりの中で安心感をもっておはなしの世界に入ることができるため、保護者によって行われることが重要となります。

さらに、子供が成長し、本を読み通せる力を身に付け、自らの考えを広げ、表現できる段階では、家族で図書館や書店に出向いて一緒に本を選んだり、イベントに参加したり、家庭内の身近な場所に本を置いたり、読んだ本の感想を伝え合ったりすることが大切です。そうすることで、保護者自身も一緒に読書を楽しみながら、読書に親しむ環境を継続的につくることができます。

また、家族で図書館等に出向くことは、静かな環境で読書に親しむ場所・時間をつくることにもつながります。

各家庭が子供の発達段階に応じて読書活動に取り組むことができるよう、家庭・地域・学校が連携、協力し、家庭で本に触れるきっかけづくりを提供していただくことが大切です。

県の取組

【乳児・幼児の保護者へのはたらきかけ】

読み聞かせの大切さを啓発する資料の配布や、保護者が読み聞かせの大切さや楽しさについて学べる参加体験型学習プログラム（親プロ等）を実施します。

【乳児・幼児が本に親しむきっかけづくり】

乳幼児健診やネウボラ等、多くの親子が集まる機会に、公立図書館[※]や読書ボランティア等が福祉部局と連携して本に親しむきっかけづくりに取り組むことを支援します。

また、「ブックスタート」[※]等乳幼児と保護者に対して本に触れるきっかけづくりとなる活動や、公立図書館で行われているおはなし会等地域で行われる児童サービスについての情報を提供します。

県立図書館では、ボランティアと協力して「けんりつ・おはなし会」を定期的を開催します。

※ 本計画においては、公立図書館及び図書館同種施設を「公立図書館」という。

※ 「ブックスタート」とは、乳幼児と保護者に読み聞かせの体験等を行い、家族のコミュニケーションを促す活動。両親学級や0歳児検診、それ以降の様々な機会に、読み聞かせの体験や絵本の紹介を行ったりしている。

【児童生徒の保護者へのはたらきかけ】

P T Aの研修会や広報誌を通じ、家庭で本に親しむことや、家族で一緒に読書することの大切さについて啓発活動を行います。

【児童生徒が本に親しむきっかけづくり】

ビブリオバトル等地域の活動や、各市町の公立図書館で行われている青少年サービスについての情報を提供し、活動を促します。

学校や図書館等において、年齢に応じた推薦図書の紹介を働きかけます。

家庭の取組例



読み聞かせ啓発資料の配布

各市町のブックスタート事業担当課と連携し、「あかちゃんへ ことばのプレゼント」等乳幼児期における読み聞かせの啓発資料を各家庭に配布します。

保護者の参加体験型学習プログラム（親ブロ）の実施

保護者が読み聞かせの大切さや工夫などについて学べる参加体験型のプログラムによる学習機会の提供・促進に取り組みます。



③ (県P連だより「陽だまり」)



P T A広報誌

保護者に対して、子供だけでなく大人にとっても読書が大切であることを啓発する記事を掲載します。

家庭での読書（くまどく）

熊野町では、家庭において子供と家族が同じ本を読み、その感想等を共有することによって互いの絆を深める「くまどく」の推進を町全体で行っています。